公式記録用紙(函工)

確認欄	

期　日	平成27年9月24日(木)	天気	晴れ	記録者	小林	大会名	第68回北海道高等学校ラグビーフットボール南北選手権大会 兼 第95回全国高等学校ラグビーフットボール大会北海道予選会	1回戦・(準決勝)・決勝
K・O	14:30　（30分ハーフ）	レフリー	山　口　昂　希	アシスタントレフリー	星　野　　卓	佐　藤　雅　敏	野々川　雅　貴	

チーム	函大有斗
番号	氏　名
1	山本　拓生
2	小鹿　尚也
3	辻口　巧
4o	長谷川　亮眞
5	笹木　玲央
6	池田　脩真
7o	川井　瑞大
⑧o	長浜　優也
9	沢田　昂平
10	海老子　諒
11	天野　聖士朗
12	工藤　駿飛
13	小川　晶
14	小野寺　駿
15	石川　太喜
16	
17	
18	
19	
20	馬場　俊希
21o	本村　温人
22	伊藤　海人
23	
24	
25	

函大有斗		対	札幌山の手	
前半	後半	スコアー	前半	後半
0	0	T	7	9
0	0	G	6	3
0	0	PG	0	0
0	0	DG	0	0
0	0	得点	47	51
0		合計	98	
3	1	反則	2	1
4		合計	3	

交　代

時間	番号		時間	番号		
後0:05	3	→ 22	ハーフタイム	1	→ 17	
		→		2	→ 19	
		→		3	→ 16	
		→		4	→ 18	
		→		14	→ 22	
		→		15	→ 25	
		→	後0:23	6	→ 21	
		→		9	→ 24	

シン・ビン or 退場

時間	番号	状況
0:20	3	危険なタックル

時間	番号	状況

チーム	札幌山の手
番号	氏　名
1o	林　一馬
2o	高橋　廣多
3o	志萱　悠馬
4o	澤田　雄大
⑤	伊藤　鐘平
6	加藤　瑞貴
7	繁松　哲大
8	ノア　トビオ
9	佐々木　颯人
10	鈴木　匠
11	中村　靖也
12	明道　風輝
13	飛弾野　雄輝
14	竹之下　遥樹
15	モリキ　リード
16o	水越　達也
17o	長里　楓
18	本間　陸人
19o	大沼　光世
20	渡邊　健人
21	石山　海渡
22	千葉　裕太郎
23	齋藤　眞梧
24	秋山　大輔
25	ニコラス　ホファ

前半

1分　山の手ラック-9-10-12-13-15-12-10mラック-9-10-4-ラック-15-12トライ．ゴール成功(0-7)
6分　山の手自陣5mラインアウト-9-15-13-14-15トライ．ゴール成功(0-14)
10分　山の手10mラック-9-10-3-14-9-5mラック-5トライ(0-19)
16分　山の手10mスクラム-ラック-9-10-12-13-11-22mラック-9-4-3-9-10-8-5mラック-9-10トライ．ゴール成功(0-26)
20分　山の手15mラック-10-8-15-ラック-22mラック-9-7-ラック-9-10-中央22mラック-9-15-2トライ．ゴール成功(0-33)
26分　山の手22mラインアウト-ラック-9-10-15-5mラック-10-5-3-ラック-5トライ．ゴール成功(0-40)
31分　山の手15mラインアウト-9-10-12-10-7-15-11トライ．ゴール成功(0-47)

後半

1分　山の手ラック-9-10-6-25-22トライ(0-52)
7分　山の手5mラインアウト-ラック-5トライ(0-57)
11分　山の手5mスクラム-9-10-22-25-11トライ(0-62)
13分　山の手ラック-9-19-9-10-17-18-19-12トライ(0-67)
17分　山の手9-10-12-13-25トライ．ゴール成功(0-74)
19分　山の手10mラック-9-10-6-25-5mラック-9-ラック-7トライ(0-79)
24分　山の手22m左スクラム-ターンオーバー-24-10トライ．ゴール成功(0-86)
27分　山の手11-8-ラック-18-7トライ(0-91)
29分　山の手中央ラック-10-12-13-ラック-11-ラック-13トライ．ゴール成功(0-98)

戦評	南・北海道大会準決勝 第2試合 函大有斗　　対　　札幌山の手	11年ぶりの両者の対決．キックオフ直後から激しいコンタクトの中，立って細かくボールをつなぎ最後はBKで取り切る山の手に有斗のDFは防戦一方．山の手はゴール前のピンチのモールから相手ボールを取り返し，カウンターからグラウンド一杯にボールを展開しトライをとった．それに対し函館有斗はモールを起点にチャンスを作ろうとするが，山の手の堅いDFの前にボールをなかなか前に運べない展開が続いた．前半47－0で折り返し，有斗のDFが甘くなったところ山の手の攻撃は更に力を強め得点を重ねられた．有斗は数少ないチャンスを生かしたいところだったが，セットプレーが安定せず攻めの好機を失った．山の手もメンバー交代により選手が入れかわるとプレーが雑になるところもあり，攻めも単調になりがちとなったのが残念であった．